



まきび通信

校訓：夢へ みんなで まっすぐに

岡山県立倉敷まきび支援学校
学 校 だ よ り
令和8年度 7・8月号

【 地域と顔の見える関係づくりを 】

西日本豪雨から7月6日で8年となりました。亡くなった方々を悼み、真備支所には、献花台が設置され、倉敷市の伊東香織市長が花をささげました。本校でも中学部・高等部生徒会役員が献花し、祈りをささげました。

2018年7月6日、西日本を中心に記録的な大雨が降り続き、倉敷市真備町では地区全体で八つの堤防が決壊し、町の広範囲が水につかり、51人が犠牲となりました。地域の3割が水没した真備町ですが、決壊した小田川と高梁川の合流付け替え工事が2年前に完了し、今年の6月の大雨のときの小田川は、河川敷の駐車場まで水位が上がったものの、下流に向かってしっかり水が流れていて、見ていた地域の方も安心されていました。

本校は、被災後、継続的に地域の方々と地域防災について語り合う機会に参加し、真備地区全員が助かる方法について検討を重ねています（R8.6.6 山陽新聞朝刊参照）。防災アプリも箭田地区の防災訓練での出会いから生まれてきたものです。

また、本校では、災害が起こったときには、自分を守り、ともに助け合いながら避難行動ができるように、毎年、この時期に防災学習をすべての学部で行っています。被災し、4校地に分かれて学んだ経験のある生徒もだんだん少なくなってきました。今、みんなが倉敷まきび支援学校に集い、学ぶことができていることに感謝したいです。防災学習を通して、8年前の災害を忘れず、教訓として学び、本校の発展につなげたいと思います。



（ 校長 金島 一顯 ）

【 真備・船穂総おどりに参加しました 】

7月18日（土）に真備・船穂総おどりに参加しました。

テント販売では、高等部の木・竹工芸班、農園芸班、フードサービス、流通サービスが参加し、生徒たちが訪れた方に製品の説明をしたり、販売をしたりしました。

メインイベントである踊りでは、児童生徒、保護者、教職員が一体となり、まきび通りを踊り歩きました。この日は本校で同窓会も開催していて、たくさんの卒業生も飛び入りで参加してくれました。地域の方々の温かい声援を受け、楽しい時間を過ごすことができました。

そして、倉敷まきび支援学校は「スマイル賞」を受賞することができました。2学期の始業式では、代表の児童が賞状を受け取り、全校に紹介する予定です。思い出や喜びをみんなで共有したいと思います。

